

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	結核罹患率は、ほぼ横ばいであるが、全国平均より高い状態であるため、現状のまま維持継続する。
見直し・改善内容	<ul style="list-style-type: none"> 結核患者の治療を確実にを行うことを目的とし服薬支援の強化を図るとともに、接触者健診の受診率の向上を図る。 高齢者の健康診断の勧奨を強化するため、住民健診のお知らせを肺炎球菌予防接種対象者に個別通知をした。今後は、健診時期に合わせた地区回覧なども併せて啓発方法を検討する。 高齢者施設職員対象に研修会を実施し、患者の早期発見に務めた。 指定医療機関向けの研修会を実施し、連携を強化し、患者の服薬支援体制の充実を図った。